

日時：2019 年 11 月 12 日（火）17:00～19:00

場所：建築会館会議室

出席者：羽入敏樹（主査），矢入幹記（幹事），豊田政弘（幹事），池上雅之，富高隆，佐久間哲哉，中澤真司，平光厚雄，坂本慎一，漆戸幸雄，山内崇，富来礼次，石渡智秋，川井敬二（敬称略）

欠席者：濱田幸雄，佐藤洋，古賀貴士，富田隆太，中川武彦（敬称略）

提出資料：

資料3-1 2019年度第2回音環境運営委員会議事録（案）

資料3-2 191107\_環境工学本委員会（第3回）資料

資料3-3 音環境研究の社会還元促進の議論整理

議題：

前回議事録（2019 年度第 2 回）を確認した。記載の通りで承認された（資料 No.3-1）

### 1) 環境工学本委員会の報告（資料 No.3-2）

- ・ 小員会活動報告依頼 2 月 14 日までに電子ファイルにて提出のこと。
- ・ 大賞推薦候補安岡先生を 4 委員会の連名で推薦。
- ・ 奨励賞選考委員会委員の推薦，論文集委員会委員の推薦，2020 年度若手優秀発表賞の選考規定は審議事項参照。
- ・ 2020 年度大会 OS（環境工学部門）テーマは標記のタイトルで承認された
- ・ 2020 年度大会 環境工学部門について：パネルディスカッションは標記のとおり。
- ・ 書籍の電子化について。委託と直販がある。電子化のメリットは在庫問題を問われないこと。電子化は委託出版に属する。観光部数の少ない環境工学から試験的に電子化を進めるという方針。AIJES の思想とは相反する形で電子化が進む可能性あり。
- ・ 学校施設の AIJES は査読が完了し承認された。
- ・ 刊行企画書について：数値解析小員会，音環境の数値シミュレーション，第 2 版を刊行予定
- ・ 来年度予算について：内訳は基本部門 8 割，研究部門 2 割。音環境運営員会の予算は若干減る見込み。
- ・ 告知：11 月 27 日，企画シンポジウム，スピーチプライバシー

### 2) その他報告事項

- ・ 特になし

### 3) 審議事項

#### ① 奨励賞選考委員会委員の推薦

- ・ 安田先生を推薦することで承認→11 月 14 日，メールにて内諾→学会へ通知

#### ② 論文集委員会委員の推薦

- ・ 平栗先生を推薦することで承認→11 月 14 日，メールにて内諾→学会へ通知

#### ③ 2020 年度大会環境工学部門研究協議会の講演者

- ・ 辻村先生を推薦することで承認→11 月 14 日，メールにて内諾→学会へ通知

#### ④ 2020 年度若手優秀発表賞の選考規定

- ・ 「現状案の通りで問題なし」で承認

### 4) 各小委員会・WG の活動報告

#### ① 固体音小委員会

- ・ 10 月 7 日第 4 回開催。集合住宅 3 室で測定したインピーダンスに対して，各種計算法がどのように対応するかを継続して検討。

- ・ 次回 11 月 25 日に開催予定.

## ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ 10 月 11 日 (金) に小委員会を開催. 審議事項として, 佐久間先生からお話のあった音響学会春季研究発表会スペシャルセッションへの対応, 2020 年度活動計画予算案, 鉄道騒音の測定・評価方法に関する聴感実験について議論を行った.
- ・ 次回は 1 月 20 日に開催の予定.

## ③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 第 15 回 11/6 (水) に長谷工技術研究所にて開催
- ・ マンションミュージアム見学
- ・ 建築音響研究会 12 月度 (神奈川大 12/17) への投稿について
- ・ 単一数値評価量による遮音性能評価に関する検討内容の投稿について審議
- ・ 音響数値解析を利用した測定法の改善に関する検討について
- ・ 合同シンポは来年 11 月開催を目標とし, 検討を進める
- ・ 以前小林理研の実験室にて PU センサを用いて音響エネルギー密度を計測した. その解析を数値解析小委に進めてもらっている
- ・ 測定法小委としてはコーナー法を対象に実験を計画する. 来春実施を目標
- ・ 次回 1/22 (水)

## ④ 室内音響小委員会

- ・ 開催なし. 次回未定.

## ⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 開催なし. 来年度計画, 音環境の数値シミュレーション第 2 版の企画刊行員会の設置申請, シンポジウムの開催計画書を提出.
- ・ 次回 11 月 26 日開催予定

## ⑥ 音環境規準検討小委員会

- ・ 前回運営委員会 (10/1) から開催なし.
- ・ 次回は 11/29 を予定.
- ・ 次回は来年度大会の OS や学校施設・スピーチプライバシー等の AIJES などについて議論する予定.

## ⑥ 企画・広報WG

- ・ 10/8 (火) 第 4 回 WG 開催
- ・ 11/27 (水) AM 開催の第 79 回音シンポジウムに向けた資料内容チェック
- ・ 最終原稿を 11/14 (木) に提出予定
- ・ 次回 (第 5 回) WG は 12/13 (金) 開催予定
- ・ 音シンポジウムの参加申し込みは, 11/12 時点で定員 60 名に達したため受付終了

## ⑦ その他

- ・ 特になし

## 5) 音環境研究の社会還元促進について (資料 No.3-3)

これまで音環境分野において多くの研究成果・知見が蓄積され, シンポジウム, 書籍や AIJES の出版等を通じて社会に還元してきた. このような活動にもかかわらず, その知見が実際の建築設計に十分反映されておらず, 社会還元があまり進んでいない分野もあると思われる. 音環境分野の研究の社会還元を促進するための作戦を考えたい. これまでの 2 回の議論を踏まえ主査が資料にまとめた資料をベースに討議.

## 討議

- ・ 音環境運営員会レベルで実行できることを考える, 小員会レベルで実行できることを考える, (必要に応じて)

新たに小委員会を立ち上げて実行することを考える、など。

- ・ 難しいかもしれないが、法的整備が効果ありそう。
- ・ 実現場における放送の聴き取りが悪いなどのエビデンスを整理するのが良い。
- ・ 避難安全検証のルールを作る側の委員会に情報提供できるネタを整備する。
- ・ 社会還元されたことを定量的に評価できるものを扱わなければ、シンポジウムばかり企画してもあまり意味がないのでは？音響設計法を適用した建物の増加率、音響検討項目が取り上げられるデザインレビューの数、公共空間の新規の設計事例など。
- ・ 学会の委員会からの意見として、鉄道駅の音環境の悪さを鉄道建築協会などに音環境の問題提起をしてみても回答を待つ。
- ・ 運営委員会から直接意見を言うのは難しい、学会として意見を出してよいかは学会本体に諮らなければならないようだ。
- ・ 鉄道協会などヒアリングの相手先をいくつか選定し、シンポジウムを開くなどの活動をする。
- ・ 鉄道協会のほかには？空港？
- ・ 住まい方の出版に関連した失敗談。ディベロッパーにコメントを求めたが、一社単体として意見は言えないと言われた。デベ総意としての意見を吸い出すのは困難。声をかける相手を慎重に選ぶ必要がある。
- ・ 厚労省に意見を出してみたら？本当の（現場の）声が上がってくるとは思えない。
- ・ マンション学会、病院など。
- ・ 音環境に対する問題や不満を顕在化させる方法を考える。
- ・ アメリカでは、音環境の向上に投資することの価値が定量化されている、あるいは、投資の対象となる。
- ・ 訴訟をプロテクトするために、吸音対策（市場）に投資する効果が定量化されている。
- ・ アメリカは音環境に詳しいインキュベータがいる。
- ・ アメリカやヨーロッパに比べて規準の点で劣っていることを知らしめる。
- ・ 鉄道駅、空港の音環境を考えるというシンポジウムを勝手に実施、実測データを公開する。
- ・ 日本の鉄道駅、空港の音環境を海外の規準で評価して公表する。
- ・ シンポジウムは対象を絞った方が良い
- ・ 建築学会でシンポジウムを企画するのではなく、相手（保育、消防、避難など）の領域に入り込んでシンポジウムを企画する。
- ・ 音環境運営委員会として戦略的シンポジウムを開催する。異分野と対話、交流を促進する。

## 7) 他学会・研究会の予定

- ① 日本音響学会・建築音響研究会：HP 参照
- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：HP 参照

## 8) その他：

## 9) 次回以降の予定：

第4回：2020年3月4日（水）17:00～19:00（本委員会 3/4）

以上